

11/6 木

コロナ禍がん診断減

対がん協会など「早期に健診を」

2020年に胃や大腸などの5部位でがんと診断された人が、新型コロナウイルス感染拡大前の19年比で9・

2%減ったことが5日、日本対がん協会は7～8月、全国のがん診療病院や大学病院（東京都中央区）など

の全国調査で分かりました。緊急事態宣言に伴うがん検診の中止などが影響したとみられ、5つのがんで約4

万5000人の見過ぎしが推定されるといいます。同協会などは早期に検診を受けるよう求めています。

同協会や関連3学会は7～8月、全国のがん診療病院や大学病院（東京都中央区）など

など486施設にアンケートを実施。がん診

乳がんでは早期で見つかるケースが大きく減っていました。今後、

がんが進行した状態で

20年に胃、大腸、肺、乳、子宮頸（けい）の5つがんと診断されたのは計8万660件で、19年より9・2%（8154件）減少しました。減少幅は大きい順に、胃がん13・4%、大腸がん10・2%、乳がん8・2%、肺がん6・4%、子宮頸がん4・8%でした。

見つかる例が増えるとみられ、死亡率增加の懸念があります。